

平成21年度

橋梁技術発表会及び講演会

- 次世代に贈る鋼橋のために -

参加費無料
定員**200**名
申込先着順

会場

愛知県産業労働センター5F小ホール1

愛称:「ウィンクあいち」

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

TEL 052-571-6131

平成21年

日時

11

水

18 13:00~16:45

13:00~13:10

開会の辞

社団法人日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 中島 威夫

13:10~13:25

橋建協の講習会・講演会活動報告

企画委員会広報小委員会

第1部:技術発表会

13:25~14:05

1.鋼橋の制震技術の最前線

ー鋼橋に用いられる制震デバイスとその効果ー

技術委員会設計小委員会

14:05~14:45

2.都市内高架橋の設計・施工

ー中央環状線西新宿ジャンクション

立体交差部の実施施工報告ー

技術委員会架設小委員会

14:45~15:25

3.鋼床版の維持管理における調査方法

ー実態調査に基づく鋼床版の点検手法の検討ー

技術委員会鋼床版小委員会

15:25~15:40

休憩

第2部:特別講演会

15:40~16:40

鋼橋のライフサイクル性能の維持を目指して

ー免震支承と防錆システムの劣化特性ー

名古屋大学
大学院工学研究科
社会基盤工学専攻
伊藤 義人教授



16:40~16:45

閉会の辞

橋梁技術発表会実行委員会

申込方法

①Fax. 052-351-2299(裏面の用紙に記載)

②ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月下旬から)

申込期限 平成21年11月4日(水)

懇親会

5F小ホール2にて
17時00分から開催します。
会費 1,000円

参加ご希望の方は、発表会当日受付にてお申し込みください。

連絡先

社団法人 日本橋梁建設協会 中部事務所
〒454-8517 名古屋市中川区清川町2-1(瀧上工業内)
Tel. 052-351-2299

継続教育

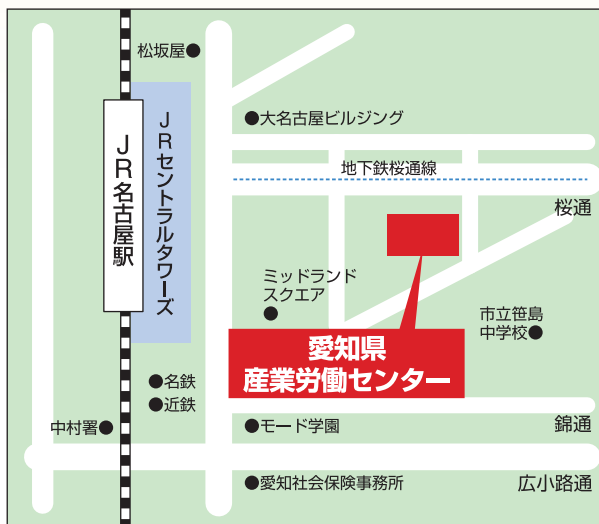
土木学会認定CPD(継続教育)プログラム

全国土木施工管理技士会連合会認定CPDSプログラム

※東京地区は 10月 9日(金) (特別講演講師:東京工業大学 三木教授)
大阪地区は 10月23日(金) (特別講演講師:大阪工業大学 栗田教授)
東北地区は 11月 6日(金) (特別講演講師:東北学院大学 李准教授)
九州地区は 11月12日(木) (特別講演講師:熊本大学 崎元顧問)開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

発表原稿のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望のかたはダウンロードするようお願いします。

アクセス



●JR・地下鉄・名鉄・近鉄「名古屋駅」より徒歩2分

1 鋼橋の制震技術の最前線

ー鋼橋に用いられる制震デバイスとその効果ー

近年、鋼橋の耐震設計では、制震デバイスを用いる事例が増加しています。従来、新設の場合は使用鋼材板厚の増厚、既設の補強の場合は鋼板の当て板や部材の追加等により耐震設計が行われていました。しかし、部材剛性が増加すると、その部材への地震力が更に増加するため、この方法は鋼材量が増加しコスト増大につながっていました。一方、制震デバイスを用いる方法では、地震力をデバイスが低減することで必要鋼材量を少なく出来るため、コスト低減が可能です。本技術発表会ではこのような制震デバイスの機能とその効果について、最近の動向を紹介します。

2 都市内高架橋の設計・施工

ー中央環状線西新宿ジャンクション立体交差部の実施施工報告ー

本工事は国道20号(甲州街道)の上を通る新宿線と環状第6号線(山手通り)の地下に建設される山手トンネルを結ぶ西新宿ジャンクションの架設です。本橋は、新宿線のさらに上空を跨ぐ鋼製橋脚と、鋼床版箱桁の剛結立体ラーメン橋です。架設地点は都内有数の交通渋滞路線が集中し、非常に厳しい施工環境下のため、複雑な架設段階毎に骨組み解析を行い、断面力や変形量を算出し、上部工の構造詳細及び架設時の精度管理へ反映させ施工を完工した。ここでは、都市内高架橋特有の厳しい制約条件の下での 実施施工について報告します。

3 鋼床版の維持管理における調査方法

ー実態調査に基づく鋼床版の点検手法の検討ー

昨今、主に都市高速や湾岸地域などにおいて、重交通に起因する鋼床版橋梁の疲労き裂が発見され、原因究明や補修・補強工法の検討、および最新の知見による補修工事などが行われています。鋼床版小委員会では、国土交通省 国土技術政策総合研究所との共同研究として、重交通路線に位置する国道を対象とした全国調査を行い、これらの経験を踏まえ、特に通常の目視点検では発見が困難なトラフリップを有する鋼床版を対象としたデッキプレート貫通型き裂の検出のための調査要領(案)を作成しました。ここでは、全国調査で発見された疲労損傷事例と調査要領(案)の概要を報告します。

特別講演会 講演者紹介

1 鋼橋のライフサイクル性能の維持を目指して

ー免震支承と防錆システムの劣化特性ー

伊藤 義人

名古屋大学 大学院工学研究科
社会基盤工学専攻

一略歴ー

1952年 名古屋市生
1975年 名古屋大学工学部土木工学科卒
1977年 名古屋大学大学院工学研究科
土木工学専攻博士課程前期課程修了
1977年 名古屋大学助手
1987年 名古屋大学助教授
1995年 名古屋大学大学院教授(現在に至る)
2000年 名古屋大学附属図書館長、評議員(兼務、～2009年)
2004年 名古屋大学経営協議会委員(兼務、～2009年)
2005年 国立情報学研究所客員教授(兼務、現在に至る)
2009年 名古屋大学情報戦略室室長(兼務、現在に至る)

取得学位

工学博士(名古屋大学)

研究分野

構造工学、環境情報学

委員会等

日本材料学会理事
日本材料学会論文編集委員会委員
IAESE会長
国立情報学研究所学術コンテンツ運営・
連携本部委員
中部図書館情報学会会長

所属団体

土木学会、日本鋼構造協会、ASCE、IABSE、
日本建築学会、日本材料学会、情報処理学会、
日本計算工学会、砂防学会、地震工学会

講演概要

鋼橋のライフサイクル性能を維持するためには、防錆システムや免震ゴム支承の劣化性能を把握する必要がある。塗装および金属被覆の防食システムに関して、各種の環境促進実験を行い、その結果を用いた評価手法について述べる。特に、酸性雨による橋梁の各種の塗装および金属被覆防食システムの劣化特性について扱う。また、耐震部材として近年重要性を増している橋梁免震ゴム支承の劣化問題について、材料レベルから部材レベルおよび鋼橋レベルまでの長期劣化予測モデルについて報告する。

FAX番号:052-351-2299

平成21年度

橋梁技術発表会 [中部地区]

参加申込書

所 属	団体名	所属
氏 名	役職	氏名
住 所	〒	
電話番号	FAX番号	
E-mail		

前回参加の有無 有 ・ 無